

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	The 60th Annual Meeting of the Japanese Society of Plant Physiologists (March 13-15, 2019, Nagoya) 第60回日本植物生理学会年会（2019年3月13-15日、名古屋市、名古屋大学）
演題名	Blue light dependent carotenoid biosynthesis and its effects on photo-acclimation in <i>Euglena gracilis</i>
発表者	*Yuri Tanno1), ★Shota Kato2,3), Senji Takahashi1,2), Kintake Sonoike4), Yutaka Kodama5), Shinichi Takaichi6), Tomoko Shinomura1,2) 1) Grad Sch Sci Eng, 2) Teikyo Univ, Dept Biosci, Teikyo Univ, 3) Center Plant Aging Res., Inst. Basic Sci., 4) Waseda Univ., 5) Center Biosci Res & Edu, Utsunomiya Univ, 6) Dept Mol Microbiol, Tokyo Univ Agric, (*2018年度植物分子細胞学研究室の大学院生、★2018年度本学の博士研究員)
内容	<p>私たちが注目している、自然環境で生育している藻類が昼夜や天候の変化などによる変わりやすい光環境にどのように順応しているかについて研究した成果を、本学大学院生の丹野夕麗君（M2）が、第60回日本植物生理学会年会における研究発表（ポスター発表）として報告しました。</p> <p>本研究では光独立栄養培地を用い、ユーグレナにおけるカロテノイド合成の光依存性を明らかにするため、青色光を3段階の光強度で処理した細胞のカロテノイドを解析しました。その結果、異なる青色光強度の処理が異なるカロテノイド分子種を蓄積させること、青色光を受容した細胞は対照区（Dark）と比較して光化学系Ⅱにおける電子伝達が向上していること、強光処理に対して耐性を持つ可能性があることが示唆されました。</p> <p>本研究の一部は科学研究費補助金(基盤研究C)の支援を受け、東京農大、早稲田大学、宇都宮大学と共に共同で研究を行いました。</p>
関連画像	 